



聖心女子大学の日本語教員課程の特徴について

日本語教師とは、外国人の方(日本語を母語としない方)に日本語を教える仕事です。日本語母語話者は日本語を自然習得しているため、日本語を話したり書いたりすることはできても、仕組みを説明することができません。「私は山田です／私が山田です」の「は」と「が」は何が違うのか？なんてことを聞かれてもなかなか答えられませんよね。母語とはそういうものです。だから、大学で改めて日本語を勉強しなければならぬのです。

増加の一途をたどる在住外国人を背景に、2019年には日本語教育を推進する法律ができました。日本語教師は、日本の社会でこれから益々必要とされる仕事です。

聖心女子大学の日本語教員課程には、ユニークな特徴がいくつもあります。その特徴を紹介させていただきます。

1. 実践力を鍛える教育実習

聖心女子大学では、教育実習を学内で行います。大使館などの多い広尾という立地条件がなせる技ですが、近隣に住んでいる外国人住民に「日本語教室生徒募集」というチラシを配布し、集まって来てくれた方に生徒になっていただきます。本当に勉強したい人が集まるので、教える側の実習生も真剣勝負です。参加者は多国籍で、常時10か国程度の方が集まり、教室の中で世界の広さを感じることができます。

2. 基礎力を付ける授業

聖心女子大学では、日本語と日本文化の授業を大事にしています。日本語を上手に教えるためには、教える内容をきちんと理解していることが必要です。日本語はどのような言語か、どのような文化の中で培われてきたか、現代社会とどのように関わっているか、こうしたことを知ると、基礎力が付き、教える時の引き出しが多くなります。そのための授業を多種多様に用意しています。

3. 教職課程(学校教員資格)との同時取得の推奨

聖心女子大学では、教職課程を取る人には、日本語教員資格を取りやすくしています。取る授業科目数を減免し、両方の資格を同時に取ることを推奨しています。これは昨今、学校現場に外国人児童生徒が増え続けている現状にもかかわらず、日本語を教えられる教員の不足がずっと指摘されているからです。学校で子どもたちを相手に行う日本語教育も楽しいですよ。

4. 多方面で活躍する先輩方

聖心女子大学は、日本語教員課程を1987年から運営しています。この間に資格をとった先輩方は410人です。海外の大学や企業内などには日本語教師として活躍する先輩もいれば、日本国内の日本語学校、大学、自治体の国際交流協会などで日本語教育に従事している先輩もいます。この広いネットワークは聖心女子大学の貴重な財産だと思います。

